

高洲地区社協だより 第68号

平成30年9月20日発行 事務局 高洲地区交流センター Tel 635-1458 Fax 634-027

三世代ふれあいイベント

大道芸人“あまる&ひっきい” 好評につき今年もやって来ました！！



今年も「高洲三世代ふれあいイベント」が、7月21日（土）に高洲地区交流センターで開催されました。昨年大好評だった“あまる”が相棒の“ひっきい”をつれて、再びやって来ました。バルーンアート、ジャグリング、バランス芸、片手で沢山のガラス球をクルクルまわしたり。大苦戦の皿回しでは、何度も何度も挑戦し、最後に成功した時には、会場から大きな拍手が。これも演出？大きなけん玉に合わせて声を出したり手をたたいたり、お客様も参加して楽しく前半が終わりました。

後半は、シンデレラ姫のお話をベースにした様なパントマイムです。みかんの王子様が靴を落としていったみかんのお姫様を探して、客席の子ども達やおばあちゃんの足に靴を合わせに。やがてみかん姫に出会ってめでたし、めでたし。

最後に子ども達の質問コーナーで「あまるさんは、芸歴何年ですか？」と聞かれ「学生時代もいれと19年。ひっきいが13年」だそうです。暑い日が続くなか、大勢の方々が参加して楽しいひとときを過ごしました。





こども福祉体験講座

みんなちがっても、おなじ「いのち」 ～絵本の点訳や介護福祉体験を通して～



7月31日（火）夏休み恒例の「こども福祉体験講座」が開催されました。今年も高洲小・高洲南小から4・5・6年生の児童と、民生児童委員やボランティア活動グループなどから大勢の方々が参加してくれました。

午前中は高洲地区交流センターにて、「点字」を学びました。ピッコラ（点訳）の会員の皆様にご指導いただき、点字器を使って点筆で点字を書いて（打って）いきます。点の打ち方やコツを教わり、点字用紙で練習しました。名前や短い文が打てたら、いよいよ本番「絵本の点訳」です。絵本は、福祉の授業でも用いられる副読本『みんなちがっても、おなじ「いのち」』を使用しました。段落ごとに抜き出した文章を、粘着剤付き透明シートに点字で書き写します。みんな真剣に丁寧に取り組んでいました。出来上がったシートを絵本に貼り付けます。先生方に仕上げをいただき、素敵な点字付き絵本ができました。完成品を各校に1冊ずつ頂きましたので、機会があれば手に取ってみてくださいね。

午後は、特別養護老人ホーム「愛華の郷」へ行きました。職員の方から「年を取るということ」や施設が担う役割について大切なお話を聞きました。施設内見学や車椅子を使った福祉車両への乗降体験の後、デイサービス利用の皆さんと交流をしました。自己紹介の後一緒にO×クイズを楽しみました。お年寄りの目線に合わせて丁寧に問題の説明をしている男の子や、仲良く正解を考える女の子に、利用者さんは「孫といるようだ」「娘の小さいころを思い出す」と言って喜んでくれました。最後に栄養士さんのお話と介護食の試食もあり、とても盛りだくさんな福祉体験の一日でした。今日の体験をこれからの生活や考え方に生かして行けたら良いですね。



地域防災研修

— 身近な見守り活動の事例を学ぶ —

高洲地区社会福祉協議会役員（35名）は、7月27日（金）富士市社会福祉協議会館において、富士市青葉地区（10町）の福祉推進会員6名（内社協1名）と研修会をもちました。推進会は、平成23年の東日本大震災の発生を教訓に、支援の必要な方の把握や、防災啓発を兼ね、平成24年から見守り活動を始めました。主な活動としては、75歳以上の高齢者宅に防災グッズ（防災袋、アルミシート、笛付き懐中電灯、オープナー、パンの缶詰、ペットボトル2本）を配布し、訪問の際には、普段からグッズの説明をしたり、支援が必要な場合は、支援センターに連絡を取ったりして、防災意識を高めてもらうよう心掛けているとのことです。最後に、両地域の活動内容について意見交換して会を終了しました。



ここ数年、経験したことない災害が、日本のあちこちで起きています。どの時点で、どこに避難するか、日頃から自分自身でシミュレーションしておくことも大事ではないでしょうか。



～トイレトレーラー出動！～

富士市では全国で1台と言われるトイレトレーラーを所有していると聞き大変驚きました。今回の西日本豪雨災害では、トレーラーに物資を積み込み、岡山倉敷市まで出動し、避難所の近くにトイレを設置することができ、利用者の方々には、大変感謝されたそうです。

